

# 時潮の流転

(昭和十四年寮歌)

望月真三郎君 作歌  
竹村伸一君 作曲

## 一

時潮じちようの流転ながれそう々と  
四季とき乾坤けんこんに巡り立つ  
去来きよらい常じょうなく人ひと変り  
有情うじよう無為むゐの時鐘かねの音に  
孤城こじやうの爽春はるは未だ浅し

## 二

遠く流離りうりの春はるに来て  
此この高楼たかのうに春愁うれひつつ  
郭公かくこう鳥の鳴くさへも  
多感たかんの児等こらの情懷むね熱く  
懷古かいこの涙なみだ溢るべし

## 三

真日まひ澄む北きたの蒼穹そうきうはるか  
飛燕ひえんひとたび音に鳴けば  
桃李とうりの華影かげは瘦せゆきて  
あはれ旅寝たびねの若き遊子わかこよ  
帰南きなんの郷愁おもひしきりなり

## 四

夕陽せきやう西に落ち行けば  
白樺しらば林朱はやしに染み  
暮秋ぼしゅうの颯かぜは飄々ひょうひょうと  
時艱じかんを憂ふ国の子この  
悲腸ひちやうの声こゑに似たるかな

## 五

北斗ほくと地平ちへいに摇曳ゆれぐとき  
天地てんちの四大しだい霜しもと凝り  
四寮しりようの高夢ゆめも凍てつきて  
ほがらほがらの朝あさぼらけ  
帰雁きがんの孤影かげよ月に飛ぶ

## 六

明日あす別れ行く旅人たびひとの  
春はるの夕ゆうべの宴遊うたげかな  
かへらぬ絢夢ゆめをしのびつつ  
生命いのちの故郷さとと慨嘆なげきしも  
すでに三星みとせ霜せの草枕くさまくら